米国の幼児教育における五つの実験（五）

大戸美也子

四　ヘッド・スタート・プログラムの評価（その二）

(3)　実践地域と非実践地域の比較

ヘッド・スタート・プログラムは、そもそも「地域社会行動プログラム」のひとつとして誕生し、その多元的な目標実現のために地域ぐるみで「アクション」を起こすことが求められてきた。従って、ヘッド・スタートを契機に地域社会の人々、あるいは地域の保健や教育関係の機関（institutes）のその地域内の貧困家庭および児童に対する態度変容は、このプログラムの効果を測るもうひとつの重要な尺度であった。経済機会局はこのような認識にたって、一九六八年のヘッド・スタートの全体的な評価のひとつに「ヘッド・スタート・プログラムの地域社会への影響の診断」を入れたのである。

研究の概要

この研究は、国立カーシュナー調査・相談所が五十八の通年プログラムを持つ地域について、一九六八年七月から一九六九年一月にかけて調査をおこなった（Kirschner Asso. Inc., 1970）。調査目的は次の四つから成り立ち、三段階を経て実施された。

1、ヘッド・スタートの目標と関連を持った地域内の教育・保健関係の機関に変化が起こったか。

2、ヘッド・スタート・センターがこうした変化に何らかの影響を与えたか。

3、ヘッド・スタートは機関の変化過程にどのようにかかわった

か。

4、ヘッド・スタートの性格や方法の違いによって、地域の関係機関に異なる変化を与えたか。

予備段階で目的1が調査され、五十八の地域で峻別された。第三段階では目的2が、また最終段階で目的3、4がそれぞれ現地調査で分析された。

研究結果

ヘッド・スタートに関連した機関内の変化は、五十八地域で総数千四百九十六項目みられたが、主なものは次の四項目であった。

1、貧しい人々の特別の要求に対して教育を強調するようになった。

2、貧しい人々に対する保健上のサービスがよりよくそして木目細かくなった。

3、貧しい人々が機関の方針決定に参加するようになった。

4、非専門者の採用が多くなった。

変化の項目数からみれば、十四から四十まで地域差がみられるが、変化項目の八十%は教育関係の機関で発生した。

次にヘッド・スタートが機関の変化過程にどのようにかかわったかをみるため、変化の過程を基盤作りの段階から実践および実践中の援助の段階まで七段階に分類し、何段階目に位置づいたかを調べた。全体の九十四%が一つないしそれ以上の変化段階をふみ、中でも（変化への）基盤作りの段階、（変化を作る）実践を支持する段階、そして実践を援助する段階に位置づく地域が多かった。

また、機関内に大きな変化をもたらしたヘッド・スタートの特色として次の二点が抽出されている。

1、両親参加のレベルが高いセンター。

2、明快で理解されやすいプログラムを持っているセンター。

以上の研究結果を総合して、カーシュナー・レポートはヘッド・スタートを「地域内の施設の改善を大幅になしとげた成功したプログラム」であると結論づけた。先回みたウェスティングハウス＝オハイオ研究では、このプログラムの「受け手」側に持続する影響のあまり見られないことが明らかにされたが、カーシュナー研究では「与え手」側に大きな影響を与えたことが証明されたといえる。かくてヘッド・スタートの評価はますます注意深く議論されねばならなくなってきたのである。

(4) プログラム別の効果の研究

これまでみてきた評価研究は、主としてヘッド・スタート・プログラムが一般的に、プログラムの受け手か送り手に与えている

影響の範囲とその程度を調べるものであって、プログラム内の変数を充分にコントロールして影響をとらえてきたのではなかった。ヘッド・スタートのセンターやカリキュラムの多様性を思い起こせば、プログラムの内容の変数は当然コントロールすべきものである。ヘッド・スタートが軌道にのり、より質の高いプログラムを求めるようになると、内容の違いによる効果差に関係者は注目するようになってきた。ここで問題となるのは、プログラム内容の特徴をどうとらえるかということである。最初、採用しているカリキュラムの質からプログラムの特徴をとらえようとした。しかし、このやり方は、記述したカリキュラムが必ず「実践」されているという保障のない限り、特定のカリキュラムと子どもの行動上の変化を関係づけることはできない。そこで、次の段階では、教師の行動を実際観察して、特定のプログラムの特徴をとらえるようになった。教師行動に明らかな差異のみられるプログラムを幾つか選択し、教師の行動と子どもの行動の関連から、プログラムを評価する研究へと変っていったのである。この種の研究はカッツ（Katz, 1969）による二種類のヘッド・スタート・プログラムの教師と子どもの行動の研究にはじまって、次第に比較するプログラムの数を増加させていくが、次章でふれるフォロー・スルー・プログラム研究でその真価を発揮するので、ここではミラー（Miller, 1972）の研究を代表として紹介するにとどめる。

ミラーの研究

この研究の目的は、四つのタイプのプログラム（モンテッソリー法、伝統的ナースリー法、ベライター＝イングルマン法、DARCEE）[注1]の教師の行動と子どもの行動およびテスト結果との関係を明らかにすることにあり、四歳児十四クラスについて調査した。各クラスの教師、子どもの行動はヴィデオにとって、十五秒単位で用意したカテゴリーに行動を分類し、子どもたちにはスタンフォード・ビネー・テスト以下七つのテストが実施された。主な結果は次のとおりである。

ベライター＝イングルマン法とDARCEE法の教師は、モンテッソリー法や伝統的クラスの教師より、「教える」活動が多く、また言葉による指示が多い。教師の技法としての「例示」行動は、ベライター＝イングルマンの教師が有意に高く、伝統的クラスの教師は、他のどのタイプの教師より「物」を動かして説明することが多い。一方、子どもの行動の特色としては、ベライター＝イングルマンのクラスでグループ活動と皆で一緒にする行動が多く、他のクラスでは、いろいろな活動が同時に展開し、個人活動が目立ち、さまざまな活動グループに移動する行動も多くみられ

る。また、テスト結果では、DARCEEクラスの子どもの達成へのモチベイションが最も高く、言語・社会的行動も教師に高く評価されている。数学能力に関する得点では、ベライダー＝イングルマン・クラスで最も高く、次いでDARCEE。モンテッソリーと伝統的なクラスではこのような訓練をおこなっていない。

こうした研究は、カリキュラムの強調点と教師および子どもの行動に関連のあることを示唆し興味深いが、プログラム別の効果について一般化することは、次章でさらに大規模な調査報告を紹介するときに改めてとりあげることにする。

(5) 継続研究

ヘッド・スタートの評価研究は多数おこなわれてきたが、(注2) より決定的な結論はより大きい、また長期にわたる研究に待つという傾向があった。最も大型の継続研究は一九六八年、経済機会局が教育研究センターに委託した七年計画の研究であるが、今日進行中で結論は出ていない（一九七六年十月一日現在）。それより、はるかに規模の小さい継続研究結果が最近報告された（Bronfenbrenner, 1974; Ryan, 1974）。これらの研究は、ウェスティングハウス研究で充分に解明できなかった、ヘッド・スタートの直接的と継続的影響の質について、八種類のプログラムの継続研究を総合して再検討を加えたものである。結果を要約すると次のとおりである。

1、例外なく、ヘッド・スタート児は一年のプログラムを通して、IQおよび認知的な能力を伸ばしている。
2、ヘッド・スタート児は、非ヘッド・スタート児より社会的適応がよく、学業成績も良いと評価されている。
3、認知的に構造化されたカリキュラムの方が、遊び中心のナースリープログラムよりテスト得点が良い。
4、プログラムに参加する年齢と期間は、認知得点の上昇に大きな影響を与えない。
5、プログラム終了後、最初の一、二年間は漸次下降し、三、四年の間に下位十%のレベルまで下降する傾向がある。
6、最も急激な下降現象は、通常の小学校へ移項した直後に起こる。但し、小学校にフォーロー・スルー・プログラムがある場合、この下降現象は緩和する。
7、プログラムからの収穫を最も小さく、また最も早く失う子どもは、最も貧しい社会的、経済的背景を持つものである。
8、プログラムから収穫する能力に決定的な影響を与える要因は、家庭の中またはその周辺にある。例えば、子どもの認知能力の最も大きなロスは、学校に通っている時ではなく、休み中

に起こるのである。

この継続研究によって、ヘッド・スタートの影響の範囲と性質が一層、具体化し絞られてきたが、このような結果から、ブロンフェンブレンナーは、今後のヘッド・スタートの重心を「家族中心」におくべきことを提唱している。ライヤンもまた、効果的なプログラムが幼児の発達に介入できることを認める一方で、そうしたプログラムが親からの影響を拒否した形で発展させている点に不健全な面をとらえ、これまで求められてきたような形の効果的プログラムの開発には躊躇を示している。これら二つの結論は、これまで「施設中心」を前提に、そこで使用されるプログラムの洗練を推進の原理としてすすめてきたヘッド・スタートの考え方を根本的にゆさぶるものである。ヘッド・スタートは、何故実施十年たらずでその基本路線の修正がせまられたのであろうか。それには、ヘッド・スタートの仮説と推進原理とに光をあて改めて検討し直す必要があるといえよう。　（つづく）

注1　DARCEE (Demonstration and Research Center for Early Education の略) とは、南部ピーボディ教員大学で、英語に強い訛りを持つ子どもたち、また英語を充分に理解しない子どもたちのために開発された、言語遂成力を促進するプログラムのこと。

注2　ヘッド・スタートの評価研究の全貌を知るためには Beller (1973), Datta (1969), Evans (1971, 1975), Grotberg (1969) の研究レビューが参考になる。

文　献　（前回の分を含む）

1. Alexsander, T., Changing the Mental Ability of Childhood in the city. Philadelphia: Temple University, 1968.
2. Beller, K., Project II: A Study of Cognitive and Social Functioning. 1967 (ED 025-310).
3. Beller, K., Study I: Use of Multiple Criteria to Evaluate Effects of Early Education Intervention on Subsequent School Performance, 1968.
4. Beller, K., Research on Organized Program of Early Education. In R. H. Traverns (Ed.), *Second Handbook of Research on Teaching*. Chicago, Ill.: Rand McNally, 1973.
5. Bronfenbrenner, U.. A Report of Longitudinal Evaluation of Preschool Programs. Vol. 2: Is Early Intervention Effecti-

ve? Washington, D. C.: OHD, 1974 (093-501).

6. Cicirelli, V., et al., The Impact of Head Start: An Evaluation of the Effects of Head Start on Children's Cognitive and Affective Development. Report to the U. S. Office of Economic Opportunity by Westinghouse Learning Corporation and Ohio University, Washington, D. C.: Government Printing Office, 1969.

7. Datta, L., A Report of Evaluation Studies of Project Head Start. Paper presented at the 1969 American Psychological Association Convention, 1969.

8. Eisenberg, L. et al., Process Report #3, Contact 510. Report to Office of Economic Opportunity, 1965.

9. Evans, E., *Contemporary Influences in Early Childhood Education*. 1st and 2nd Ed. New York: Holt, 1971 & '75.

10. Faust, M., Five Pilot Studies: Concerned with Social-emotional Variables Affecting Behavior of Children in Head Start, 1968.

11. "Head Start Reaction" in *Childhood Education*, 1966, 42(8).

12. Holms, E. and A. Holmes, An Evaluation of Differences Among Different Classes of Head Start Participants, 1966 (ED 015-012).

13. Grotberg, E., *Review of Research 1965 to 1969*. Washington, D.C.: Research and Evaluation Office (OEO), 1969.

14. Hyman, I. and D. Kliman, First Grade Readiness of Children Who have had Summer Head Start Program. The Training School Bulletin, Vineland: American Institute for Medical Studies, 1967, 63, 163-167.

15. Jensen, J. and L. Kohlberg, Report of A Research Demonstration Prolect for Culturally Disadvantaged Children in the Ancona Montessori School, 1966 (ED 015-014).

16. Johnson, L., Remarks on Announcing Plans to Extend Project Head Start. Public Papers of the President Johnson, No. 467, Aug. 31, 1965.

17. Kirschner Associates, Inc., A National Survey of the Impacts of Head Start Centers on Community Institutions: Summary Report. Paper for Office of Child Development, 1970.

18. Katz, L., Children and Teachers in Two Types of Head Start Classes. *Young Children*, 1969, 24(6), 342-349.

19. Levitan, S., Head Start. In L. C. Deighton (Ed.), *The Encyclopedia of Education*. New York: Macmilan and Free Pr-

ess, 1971.

20. Madow, W., Some Comments otn he Report: The Impact of Head Start. Paper prepared for Britanica Review of American Education, 1969.

21. Miller, L., Experimental Variations of Head Start Curricula. Ky.: University of Louisville, Dept. of Psychology, 1972.

22. Nixon, R., Special Message to the Congress on the Nation's Antipoverty Programs. Public Papers of the President Nixon No. 55, Feb. 19, 1969.

23. Nixon, R., Message to the Congress Transmitting Report Relating to the Head Start Program. Public Papers of the President Nixon, No. 56, Feb. 19, 1969.

24. New York Times, April 18 and April 27, 1969.

25. Ryan, S., A Report on Longitudinal Evaluation of Preschool Program. Vol. 1, Washington, D. C.: DHEW, 1974.

26. Osborn, K., Project Head Start—An Assessment, *Educational Leadership*, 1965, 23(2), 91-95.

27. Smith, M. and J. Bissell, Report Analysis: The Impact of Head Start. *Harvard Educational Review*, 1970, 40(1), 51-104.

28. Wolff, M. and A. Stein, Six Month Later. Study I. Comparison of Children Who Had Head Start, Summer 1965, With Their Classmates in Kindergarten, A Case Study of the Kindergarten in Four Public Elementary Schools. OEO Project 141-41, 1966.